



二葉幼稚園

園のたより

2024年

3月



3月の聖句

しゅよ、あなたのみちをおおしえください

詩編86章11節

3月のさんびか

きゅうこんのなかには

こどもさんびか かいていばん135

神さま ありがとう



この季節になると子ども達やご家族お一人お一人との出会いから、印象深い場面等が走馬灯のように蘇ってきます。「神さま ありがとう」という月主題に、まず浮かんだのは皆さまとの出会い、細やかな日常の喜び、そして今生きているということ…。

年長児が一年間コツコツと準備をして開催したお店屋さんごっこ。買い物から保育室へ戻ってきた年少の♡ちゃんが「見て～。メロンアイス買ったよ。園長先生も一緒に食べる?」と私にも…「アムアムつめた～い!」「ほら、おいしいでしょう?」とにっこり。年中 ◆くんは大きな大きなロボットを購入。お母さんが胴体を、◆くんが頭部分?を分けて持ち、親子揃って満面の笑み。「帰ったらまたくっつけま～す!」と軽やかな足取りの後ろ姿に思わずほっこり。当の年長さん。ホールは熱気満々。どの店でも立派に「いらっしゃいませ～。これおススメで～す!」各お店を廻り、店員さんから色々と商品紹介を聴き、悩んだ挙句3枚のお金で3つの商品を購入直後、背後からスス～と寄ってきた☆ちゃん、私を抱くように耳元で「園長先生、これ、タダであげるね!」手渡されたのは、袋に入った兎やハート、手裏剣の折り紙セット。この機転の利いたお茶目な言動に頬は緩みっぱなし。どの姿もその子らしくて愛おしい…。

かけがえのない子ども達の未来に、私達は何を残せるだろう?と考えた時、その一つとして一月の講演会: 正置友子先生の著書『生きるための絵本～命生まれるときから命尽きるときまでの127冊～』(風間書房2023年)の「はじめに」の一文が浮かびました。「絵本という柔らかくしなやかな媒体は、読んでくれた人の声や姿が絵本を読んでもらったときの雰囲気とともに、体に刻み込まれているのです。時には、この記憶が、一生を支えるかもしれません。親はわが子とその一生を同伴することはできません。しかし、一緒に読んだ絵本は、その子の心の中でその生涯の終わりまで伴走を続けることができます。」と。子ども達だけでなく、ご家族にとってもそんな絵本体験が持てることを願っています。今、先生の著書を読みながら、127冊の絵本を1冊ずつ、絵を丁寧にみてから文を読み、お馴染みの絵本も新たに出会う絵本も新鮮な気持ちで味わっています。知っていたけれど初めて手に取り、じっくり向き合った絵本『せかいいち うつくしい ぼくの村』(小林豊 ポプラ社 1995)を読み、ハッとさせられました。子ども達に平和を、ふるさとを残せるかどうかは他でもない私達大人にかかっている。美しい風景は世界中にまだ沢山あるでしょう。けれども子ども達の根っかが育つ時期に、過ぎた場所、出会った人々、穏やかな日常が何より心の原風景になるとしたら…?機械化が進み、AIが次々開発されたとしても、人を育むのは肌のぬくもりであり、ありのままの姿に寄り添い、丸ごと受けとめようとする、感情のぶつかり合いがあっても、どうにかこうにか折り合いをつけ抱え続けようとする人と人との間で、人は心耕し遅く育ちあっていくのではないのでしょうか。人知を超えた神様の深い思いに耳を傾け、感謝を胸に歩みたいですね。【園長】